関連学会印象記

第38回日本移植学会総会

田 邉 一 成*

第38回日本移植学会総会は東間紘総会会長のもと，2002年10月17日から19日の３日間にわたり，台場にあるホテル日航東京で行われました．

今回は400題を越える演題が集まり，参加者も1300人を越え，非常に活気にあふれた学会であったというのが全体としての印象です．この理由として第38回総会ではいくつかの点で特徴があったように見受けられました．

まず最も特徴的であったのは，移植患者さんや移植希望者，あるいはドナー家族の方々の参加があったということでしょう．これまでの学術総会に患者さんが参加した例はなかったのですが，東間学会長の挨拶にも「わが国においては，移植医療に伴う負の面ばかりに目を向けられることが多く，このような移植医療のもたらす光の部分にライトが当てられることが少なかったのですが，もっと移植医療とはすばらしいものだということを，少しでも多くの人々に理解していただけるよう，そして１人でも多くの方が臓器提供の意思表示カードを持っていただけるよう，学会開催期間中移植患者のみなさんはもちろん，ドナー家族の方々にも参加していただき，発言や情報交換の場をもうけたいと思っております」とありましたように，学会員だけでなく患者さんにも参加していただいたことは非常によかったと感じました．臓器移植の持つ社会性を改めて考えるのに，大いに貢献していたのではないかと感じました．まさに，移植医療の原点を考えるという今回の学会の趣旨にぴったりの企画であったように思います．

このために学会期間中を通じて300人近く収容できる会場が常時「臓器移植公開セミナー会場」として公開され，各臓器移植の最新情報や移植後の日常生活についてのレクチャー等が行われました．また，肝移植を受けた芸能人の方や，腎移植を受けた後も旅館の女将として活躍されている方の体験談などもあり，常時ほぼ満員の状態で会場に入りきれない人も多く見受けられました．

一方，学会に参加された移植患者の方々の多くは公開セミナー会場のみにとどまらず，一般学術発表にも参加されていました．一部には患者の方々のいらっしゃるところで議論しづらい事もあるのではないかとの考えもあったようですが，これも東間学会長の「情報を公開し，何も隠さず，誠意を持って治療に当たる」というお考えのもと完全公開となりました．ともすると閉鎖的で密室的といわれてきた日本の医学界に大きく風穴をあけたとの印象を強く持った次第です．何も隠さず，何ができ，何ができないかを患者の方々を交えて討論できたことは，本学会を際立った学会とした最大の理由と感じました．

一方，学術集会で印象的であったことのひとつに早朝からの教育セミナーがありました．演題数が予想以上に多かったためやむを得ず７:00という早朝からのスタートとなったのですが，日本の学会ではあまり行われていなかった多分野にわたる基礎教育セミナーは非常に勉強になりました．朝早くからのレクチャーで主に若手医師向けに企画されたものでしたが，若手医師のみならず，ベテラン医師，コメディカルの方も多数参加され，部屋によっては席が足りなくなるところもあり，驚いた次第です．今後とも学会員全体にスタンダード治療を明確に示すために教育セミナーは欠くことのできないものであるとの印象を改めて強くしました．

もうひとつ今学会で目立ったことのひとつにランチョンセミナーが全くなかったことが挙げられ

*東京女子医科大学泌尿器科

Presented by Medical*Online

ます．社会性の高い学会である点を非常によく御理解していただいた学会会場のホテル日航東京からの申し出により昼食がドネーションされ，ともすると薬品会社の宣伝のようになるランチョンセミナーがなかったことは，東間会長の言われた「原点に立ち返った手作りの学会」を強く印象づけるものであったと思います．

学術集会の内容ではプレナリーセッションで，各臓器移植で最も話題になっていることがとり上げられており，非常に活発に議論されていました．

特に成人肝移植，コンセンサスミーティング：多臓器摘出，コンセンサスミーティング：グラフトサイズ（肝）などは，学会員全体のup to dateな知識を整理するうえで非常に有効であり，活発な議論がみられました．

さらに，Advance in Laparoscopic Live Donor Nephrectomyではラトナー教授にも司会者として参加してもらい非常に活発かつcriticalな議論が続き，Laparoscopic Donor Nephrectomyを考える上で多くの示唆を得ることができました．

また今回はコーディネーターの方々の会議であるJATCOも同時開催されたこともあり，多数のコーディネーターの方々の参加を得られたことは非常によかったと思います．医師，コーディネーター，患者さんが一緒に参加することにより，よりよい連携が出来上がってくるものと確信しました．

また学会2日目の10月18日夜に行われました会員懇親会には，多数の患者の方々や会員の方々が参加されていました．会場のいたるところで患者さんと医師，コメディカルの方々が和やかに，時には真剣にお話されており，従来なかった雰囲気のなかでの懇親会となっていました．

以上かいつまんで今学会の印象について述べてみました．いくつかの点で極めて斬新な学会であったというのが全体としての印象でした．

Presented by Medical*Online